

第17回

留学生による 日本語作文 コンクール

入選作発表

2010年 9 月



**主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター**



第17回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

ALOUNSOULIYA ALY
(ラオス)
アルンソリヤ アリー
「私のヒーロー」

優秀賞

CHEN KELVIN YIGENE
(アメリカ)
チャン ケルビン イジン
「私の趣味」

徐 中毅 (中国)
ジョ チュウギ
「上海の四季」

李 寒冰 (中国)
リ カンヒョウ
「発見!日本の料理店は中国と違う」

謝 彩萍 (中国)
シャ サイピン
「チャイナドレスの美意識」

VALENCIA MANTILLA NICOLAS
(コロンビア)
バレンシア マンティーヤ ニコラス
「人生の反省」

中級

最優秀賞

彭 莉喬 (台湾)
ポン リキャオ
「さよなら」

優秀賞

陳 昭佑 (台湾)
チン ショウユウ
「留学生と大阪弁」

FROMELL CARL HUGO JONATAN
(スウェーデン)
フロメル カール フーゴ ヨナタン
「日本の生活を盗み聞き」

方 振文 (中国)
ハウ シンブン
「漢字を味わう」

上級

最優秀賞

崔 林日 (中国)
サイ リンニチ
「夢への道」

優秀賞

張 雁婷 (中国)
チョウ ガンテイ
「日本のバリアフリー」

梁 霄 (中国)
リョウ ショウ
「私が体験した日本文化」

審査員特別賞

林 宜臻 (台湾)
リン イーシン
「売り物上手」

初級参加者 45名

张 悦霖 (中国)
 賴 姿瑩 (台湾)
 赖 程诚 (中国)
 吴 开泰 (中国)
 齐 涓邑 (中国)
 禹 裕理 (韓国)
 王 萌萌 (中国)
 徐 中毅 (中国)
 刘 舒涵 (中国)
 CHEN KELVIN YIGENE (アメリカ)
 何 昀瑾 (台湾)
 谢 彩萍 (中国)
 INDAH BANARNI (インドネシア)
 金 東祚 (韓国)
 VILLAR ARCHEMIDES PORRAS (フィリピン)
 VALENCIA MANTILLA NICOLAS (コロンビア)
 李 卓希珈 (中国)
 王 怡婷 (台湾)
 LAM SHI WEN MICHELLE (マレーシア)
 江 若飞 (中国)
 李 寒冰 (中国)
 胡 佳雯 (中国)
 张 文婷 (中国)
 楊 雅婷 (台湾)
 RADIFA CENDANA PUTRI (インドネシア)

苗 淼 (中国)
 FAISAL A.M. ALRASHED (サウジアラビア)
 CABALQUINTO ALVIN ANGELO CAMBRONERO (フィリピン)
 BACALLA RONILO JR. OCAMPO (フィリピン)
 BYAMBAJAV SHULUUNSUREN (モンゴル)
 BUDAASUREN MYAGMARSUREN (モンゴル)
 ALOUNSOULIYA ALY (ラオス)
 CHANGVISOMMID PAKHAM (ラオス)
 KAIGWA TWELI GICHUHI (ケニア)
 DOUEI MONDEKA FABRICE (コートジボアール)
 GRIFFIN HERA MIRIAM NENITA (バプアニューギニア)
 DOKONI BALJEET SINGH ESIRA (フィジー)
 SHOEV MUHAMADJON (タジキスタン)
 FOZILOV MANUCHEHR (タジキスタン)
 NABENDE INNOCENT (ウガンダ)
 SEREM GIDEON KIPTOO (ケニア)
 KAIBERE FAITH WACHINGA (ケニア)
 LELEI SHARON JEPCHUMBA (ケニア)
 NYANG'AU GEOFFREY MOGAKA (ケニア)
 ALTAMI, MAZIN AHMED S (サウジアラビア)

中級参加者 41名

王 维 (中国)	崔 善美 (韓国)
孙 艺萌 (中国)	SABIR, AHMED ABDULMAJEED A (サウジアラビア)
李 珉愛 (台湾)	洪 敬倫 (台湾)
VAN VLERKEN YVONNE (オランダ)	黄 子玲 (台湾)
呂 得綱 (台湾)	SWINN KIRSTIE DAVID (オーストラリア)
仇 婷 (中国)	HOANG THI SOA (ベトナム)
马 振东 (中国)	THEN HUI ZEE (マレーシア)
王 信智 (台湾)	何 昱霖 (台湾)
FILEMBAN, SHIMAA MOHAMMED J (サウジアラビア)	陳 昭佑 (台湾)
LAU QIAO YOU (シンガポール)	梁 天驰 (中国)
方 振文 (中国)	咸 謹柱 (韓国)
鍾 汶翊 (台湾)	孫 偉家 (台湾)
彭 莉喬 (台湾)	KATO LETICIA HANAE (ブラジル)
王 薇 (中国)	
韩 慕 (中国)	
杜 佳音 (中国)	
FROMELL CARL HUGO JONATAN (スウェーデン)	
ALOTAIBI, MAHER BAMDAR S (サウジアラビア)	
BANTAN FAKHIR MOHAMMAD L (サウジアラビア)	
ALJOHANI, ABDULKAREEM JAMEEL S (サウジアラビア)	
柳 昊奭 (韓国)	
呂 司政 (台湾)	
譚 晓凤 (中国)	
吴 杨 (中国)	
陈 杰 (中国)	
李 罗群 (中国)	
WEE LI YAN, JEANETTE (シンガポール)	
申 志元 (韓国)	

上級参加者 47名

陈 铮 (中国)
 簡 姿帆 (台湾)
 崔 林日 (中国)
 晏 金林 (中国)
 洪 阡珊 (台湾)
 林 惠慈 (台湾)
 汤 莹 (中国)
 张 仲凯 (中国)
 柳 婧 (中国)
 郑 冠宁 (中国)
 詹 林子 (中国)
 林 宜儒 (台湾)
 林 宜臻 (台湾)
 王 思琪 (中国)
 梁 霄 (中国)
 李 光星 (中国)
 林 政緯 (台湾)
 丁 冬 (中国)
 杨 淙淙 (中国)
 李 星磊 (台湾)
 程 冉冉 (中国)
 謝 昀燐 (台湾)
 龚 茜 (中国)
 黄 杨 (中国)
 常 芝凡 (中国)
 郭 力嘉 (中国)
 刘 思博 (中国)
 唐 海良 (中国)

牟 志修 (中国)
 何 政輝 (台湾)
 宋 彦璋 (中国)
 李 美英 (中国)
 李 恩 (中国)
 康 陆 (中国)
 劉 俊彦 (台湾)
 孙 维胜 (中国)
 刘 柯 (中国)
 刘 庆锐 (中国)
 浦 修伦 (中国)
 张 迪 (中国)
 俞 改改 (中国)
 趙 城旻 (韩国)
 陳 映霖 (台湾)
 张 铭扬 (中国)
 朴 冠宇 (中国)
 张 雁婷 (中国)
 徐 静文 (中国)

私のヒーロー

ALOUNSOULIYA ALY (ラオス) アルンソリヤ アリー

最優秀賞 (初級)

私の祖国はラオスです。たくさんの人は私の国を知りません。小さくて有名じゃない後進国だからです。すべての部門特にメディアと娯楽は発達していません。私が子供のころから今まで全部見た漫画とアニメーションは外国からのです。それに十代の子供は自国の国民が作った映画を見ることができませんでした。

八年前に日本の「一休」というアニメはラオスでたいへん人気がありました。よく見ていると細部特に一休さんから日本の社会や古い習慣もよく分かりました。私は一つの疑問を持ちました。どうしてラオスにアニメが無いのですか。もしあれば人々は確かにとても嬉しいでしょうね。できれば、私は自分でラオスのアニメを作りたいと思っています。想像のアニメのタイトルは「ラオス」です。主人公の名前は「サバイディーさん」です。「サバイディー」は日本語で「こんにちは」という意味です。彼は腕白で賢い十歳の男の子です。絹の民族衣装を着ています。また、古い楽器の笛が上手で、いっしょうけんめい勉強するので人々にいろいろな質問をします。お父

さんの農場の問題を解決するためにラオスの全部の州へ行って、答えを捜して、冒険を始めます。彼は観客の案内人なので皆が国に長い伝統がある古い文化や華麗な歴史や風俗をよく知っています。彼もラオスと外国の橋ですから皆に観光名所、食べ物、住民の親しみやすさを紹介します。毎回綺麗な景色を見ることができます。それで、彼は国民の代表になってラオスは世界で有名になります。そして、ラオスの若い人々と一緒に国の文化を助け守ります。

将来、もしこのヒーローが本当に生まれたら、私の人生で最高にうれしいです。私はいつも正夢を期待してアニメを考えています。

私の趣味

CHEN KELVIN YIGENE (アメリカ) チャン ケルビン イジン
優秀賞 (初級)

チェスはかなり複雑なゲームです。精密な勘や深い集中力を必要とするゲームです。たまに運も必要ですが、それに頼ってはいけません。けれども、チェスは私にとっては趣味として情熱をもって生活を楽しむものなのです。

チェスを理解することは自分を理解できるだけでなく相手を理解することでもあります。チェスをマスターすること、それはあり得ないことです。私は中学校で初めてチェスをしました。その時は昼休みになると、図書館で友達とチェスをしました。初心者だったので指すのが下手でした。でも、よく練習したので、だんだん上手になりました。中学校を卒業して、高校生になってからチェスクラブに入りました。私の学校のチェスチームは強かったのですが、なかなかチームに入れませんでした。もう一年練習した後でやっと五人のチームの一員になりました。

戦っている間にはおそらくありとあらゆる間違いを犯したことでしょう。でも、試合中にこの色々な間違いをしたことは私のチェス理論とチェ

スに臨む態度の成長を容易にしました。色々な「オープニング」の実験をし始めて、「シシリアン・ディフェンス」のような「オープニング」を覚えました。それによって、「チェスのレパートリー」ができました。私にとって、チェスは単なるゲームではなく、私の一部になりました。

高校生の時には二年生から四年生までの間に学校を代表してニュージャージー州高校生チェス大会に参加しました。私達の努力と情熱を通して、2007年に州で三位を勝ち取り、2008年には二位を勝ち取り、2009年にはついに一位を勝ち取りました。私達の精一杯の努力が皆の予想を越えて、最後には金賞杯を学校へ持って帰ったのです。

上海の四季

徐 中毅（中国） ジョ チュウギ

優秀賞（初級）

大阪と同じように、上海は四季がはっきりしています。

上海の初春はかなり寒いのです。人々はまだ厚い冬服を着て道をおいでしています。4月の始めになるとだんだん暖かくなって、公園にいろいろな花が咲くと花の上を蝶々や蜜蜂が飛びます。川では若い人たちがボートに乗って遊び、木の下では老人たちが太極拳をしたりバドミントンをしたりしています。また芝生では子供たちがサッカーをしたり風を上げたりしています。みんなとても楽しそうです。

上海の夏は大阪のより蒸し暑いです。最高温度は摂氏40度ぐらいになって、たいへん暑いので私は夏が嫌いです。夏も嫌いですが梅雨はもっと嫌いです。毎年6月10日ごろ梅雨に入って7月15日ごろ梅雨が明けます。梅雨はたびたび雨がしとしと降ってうっとうしい日が続きます。ですから梅雨ときには物がかびやすいので梅雨が明けると人々はすぐ掃除や洗濯をします。ところで夏になるとおいしい果物がたくさんあります。スーパーでは西瓜や葡萄や桃やそのほかいろいろな果物を売っています。私は西

瓜が大好きです。けれども日本では西瓜の値段がたいへん高いのであまり食べられません。夏休みに国へ帰った時はぜひたくさん西瓜を食べたいです。

一葉落ちて天下の秋を知る。9月になると秋が忍び寄ります。秋になると涼しくなります。朝と夜は少し寒いです。午後から夕方までは少し暑いです。昼と夜の温度差が大きいので気持ちがいいです。

上海は湿度が高いですから、冬になるとたいへん寒いです。最低温度は零下4度ぐらいです。けれども上海ではふつう雪があまり降りません。雪がない冬はきれいではありません。それは残念なことです。

私は四季の中で春が一番好きです。それは夏は暑くて冬は寒く、秋は乾燥しているからです。ですから春が一番気持ちがよくて好きです。

発見！日本の料理店は中国と違う

李 寒冰（中国） リ カンヒョウ

優秀賞（初級）

私のおじは日本に20年住んでいるので、日本人のことをよく知っています。それに今年自分の中華料理店を開業しました。私は今年の四月に日本へ来て、おじの家に住んでいるので少し手伝ったことがあります。その時いろいろな中国との違いを発見しました。

まずよく店へ来る日本人は食べる時、店の人と話すことが好きなようです。おじの話によると日本人にとって気持ちは大切です。店の人と話す時は自分が知らない面白いことを聞いて、楽しくなるそうです。そして気持ちがリラックスするとたくさん食べるそうです。けれども中国では消費者はお金を払って、店の人はお金を貰っていると考えるので、お客さんが上、店の人は下と考えます。ですから私の故郷の山東省では店の人がお客さんと世間話をするのは大変失礼なことです。

2つ目の違いは店の広さと中の様子です。日本では10席ぐらいしかない店やあっても5、6テーブルしかない小さい食堂があります。居酒屋と寿司屋に行った時カウンターの席も見まし

た。私の先生の話によると日本人はカウンターから料理を作っている過程を見ることが好きだそうです。面白く感じるからだそうです。中国のお客さんは自分の空間を持つことが好きですから、狭いカウンターは好きになれないでしょう。また中国の料理人は料理を作る時強く炒めることが多く、煙がひどくなると目を刺激するのでお客さんに料理を作る様子は普通見せません。だから日本のようなカウンターのある料理店は中国にはほとんどありません。

私は来年日本の大学の法学部に入り、法律やビジネスを勉強して、将来は中国へ帰って国際弁護士になりたいです。ですから今毎日生活の中でいろいろ発見するのは面白いです。

チャイナドレスの美意識

謝 彩萍（中国） シャ サイピン

優秀賞（初級）

中国を代表する伝統的な衣装チャイナドレスは西洋の美人が着るものとは完全に違い、魅力的な極まりない東洋の美しい女性を描く。

数千年来、中国の社会で主導的な地位を占めてきた儒教思想にある「中庸の道」は人々に穏やかで、平和で、足ることを知れば常に楽しくなるといったことを教えている。中国の封建時代から踏襲され、女性を拘束していた「婦人の道を守る」、「三従四徳」といった規則、それに女性の衣装に対して求められた「調和」、「平穏」といった特徴には、「中庸の道」がある程度直接体现されている。それゆえに、チャイナドレスは理想的な衣装の模範にもなる。チャイナドレスは動感をなくし、生地によって女性の優美な曲線をぼんやりと示す。線が平らでなめらかで、鋭い角もなく、気楽さと自然さを感じさせる。正面から見た時の肩の幅、合わさった腰と下のすそとの組み合わせは、「X」の形を構成し、側面から見ると、高い胸と後臀は前後連続して「S」の形を形成していると見られる。全面的に女性の曲線の美しさを体

現しており、世界的な婦人服の風潮にも合う。そのセクシーな面は異性に親しくなりたいという感じを起こさせるので、チャイナドレスは美感と性との密接な関係をも体现し、異性に強烈さと引きつけられる感覚を与える。チャイナドレスは人体の自然的なスリーサイズ曲線に基づいて東洋の美人のしとやかさと美しい体形を現し、人々にそのやさしさ、優雅さ、それに魅力を示す。東洋の女性特有の美しさを婉曲的に露わにしているが、直接現すには一定の限度がある。

チャイナドレスは莊重且つ優雅な美しさが体现され、それにひざも外に現れないということこそ東洋の民族特有の美学の表現でもある。

人生の反省

VALENCIA MANTILLA NICOLAS (コロンビア) バレンシア マンティーヤ ニコラス

優秀賞（初級）

公園はふしぎな場所で日本の慌ただしい生活から逃れるためのオアシスとして利用されています。そこでは時間が止まっているように感じます。鳥の楽しいさえずりが聞こえなければたった一人だと思うかもしれません。時々私の人生を公園での散歩と比べてみます。舗装された道を通ればみんなが知っているようないつもの同じ場所へしか行くことはできません。しかし、林を通ることでもっと面白くもあり、驚きもあります。

古い木の青葉が風に吹かれる音がよく聞こえる道を通ると昔過ごした時間を思い出して懐かしくなります。一人で新しい道を通る時は帰り道を覚えなければ道に迷ってしまいます。しかし、これはそんなに難しいことはありません。新しい道にチャレンジする時は自分の先生や先輩のことを考えればきっと道が開けます。なぜなら先生や先輩達はその道を通るためにたくさんの苦労や努力をしたからです。コンクリートの道は歩きやすく誰でも通ることができます。けれどもまだ土の道は歩きにくいです。私はその土の道を舗装するために先生や先輩から

色々な事を教えてもらって後ろから来る人達が通れるようにきれいな道にしたいと思うのです。

人は今ある道だけでなく歩く道をいくつでも作ることができます。歩きやすい道じゃなくても自分でいろんな道をつくって行くことができます。そしてそれは人の心の中にも作ることができます。新しい道でオアシスにたどりついたその時に先生や先輩のことを決して忘れてはいけません。自分をオアシスに導いてくれたのはその尊敬する先生や先輩達だからです。

さよなら

彭 莉喬（台湾） ポン リキヤオ

最優秀賞（中級）

「さよなら」は人々が別れの時によく言う言葉です。この言葉には二つの意味が含まれていて、一つは「今度会うのを楽しみにしています。」そして、二つ目は「永遠の別れ。」「さよなら」です。この言葉は短いですが、中には楽しい意味もあれば悲しい意味もあります。

「さよなら」、私は父の手をぎゅっと握り締めながら、そっと父に別れを告げました。そして、父の手がだんだん冷たくなって、私は涙を拭きながら、父の青白い顔を見ました。五年前の早朝、私と父は永遠に別れてしまいました。あの日は私の人生における最悪の日でした。

私の父は車のアクセサリーの商売をしていて、父は経営者として会社のことにいつも全力を尽くしていました。父はいつも笑って仕事をしていましたから、会社の社員全員にとって父は親切で、立派なボスでした。

そして、私にとって父は世界中で一番優しいお父さんです。父は私と兄に対して決して厳しいことを言いませんでした。たとえ私達が何か悪いことをやっても強く叱ったことはなく、いつ

も私達に「今度からこんなことはやめてくれるか。」と優しく言って、私達の頭をちょっとなでるだけでした。

子供の時、私は父の手が一番好きでした。父の手は大きいし、あたたかいですから。小学校と中学校の時、毎朝父は私の手と引いて、私を学校へ連れて行きました。そして学校の門で父はいつもにっこりしながら、優しく「さよなら」と言いました。あれは毎日の一番幸せな時間です。あの時、「さよなら」この言葉は私にとって一つの意味だけで、それは「今度会うのを楽しみにしています。」でした。

しかし、こんな幸せな生活は長い時間は続きませんでした。私が高校二年生のある日、父は頭痛で突然倒れました。最初父はストレスで頭痛がただけだと、みんなそう思いました。でも、父は頭痛がどんどんひどくなって、最後は歩くこともできなくなったので、病院へ検査に行きました。

診断の結果によると父は肺癌で、それももう末期で、癌細胞が脳に転移していて、父の頭に脳腫瘍が三つもありました。医者は私達に父は三ヶ月の命しかないと言いました。そして私と母

は抱き合いながら、激しく泣きました。あの時から、家族全員の生活がすっかり変わりました。

そして、父は治療を始めて、頭の手術を受け、化学治療をし、抗癌剤を飲むなど、すべての方法を尽くしましたが、治療効果は限りがありました。父の病状はよくなったり、悪くなったりしました。病状がひどくなった時、父は私を見て、「あなたは誰。」と聞きました。私は何も言えなくて、ただ悲しくて、父に抱きつきました。この期間は父にも家族のみんなにとっても長くて苦しい時間でした。

でも、医者と言ったとおりにはありませんでした。父は肺癌を発病してから、一年半ぐらいの治療をして、みんながちょっと安心した頃、父の癌が急に悪化しました。その後、父の体調はますます悪くなり、話すこともできなくなりました。

最後の一ヶ月、父は昏すい状態に陥ってしまいました。毎日私は父の手を握って、一生懸命に奇跡を祈っていました。しかし、奇跡は起こりませんでした。最後の日、家族みんなは父の側で父を囲んでいました。私は涙が止まらず、くりかえし父を呼びました。「さよなら」と言うか言わないかのうちに、急に父の目から涙が落ちました。父は涙で私達に、「さよなら」と告別しました。ただ、昔と違う

のは今度の「さよなら」は「永遠の別れ。」の意味でした。でも、今私はよく父のことを思い出します。だから、あの日の「さよなら」は「永遠の別れ」の意味ではありません。父は永遠に私の心に生きているからです。

留学生と大阪弁

陳 昭佑（台湾）チン ショウユウ

優秀賞（中級）

関東地方の日本語学校では、こんな場面があるかどうかわからないけれども、この日本語学校の教室でこんな質問をよく聞きます。「先生、この言葉は大阪弁でどう言いますか。」そうです、大阪弁に関する問題です。それでは、どうして留学生たちは大阪弁を習いたいのでしょうか。私は理由が三つあると思います。

第一の理由は帰属意識だと思います。すなわち、大阪への帰属意識です。じつは、すべての留学生の国の中には、きっといろいろな方言があるはずです。例えば、台湾でも、台湾語はたぶん北部弁と南部弁に分けられます。もし、もっと細かく分ければ、地域によって台中弁や高雄弁などにも分けられます。ですから、これらの異なった地域方言によると、各人の出身が自然に知ることができて、もしかすると、特別な方言をもっていることを誇れるかもしれません。したがって、留学生たちは日本、母語が話せない国へ来ると、この場所と繋がりたい、自分はこの場所に属するのだという気持ちが生まれるため、大阪弁を習いたくなるのだと思います。その理

由は、外国でどんな長い時間住んでも、ずっと気が合わないこともあるからです。例えば、生活習慣や飲食習慣などのことです。ですから、言語の面で少し繋がりがあれば、この場所に帰属する気持ちがもっと感じられるかもしれません。それに、上手な大阪弁で日本人と話せば、日本人も親近感を持つでしょう。

第二に自分の日本語能力が上達になったと認められると思います。なぜかという、大阪弁が流暢に話せれば、ふつう、標準語も上達になっているでしょう。なお、日本語学校で勉強している日本語は教科書の言語ですが、日常でほんとうに生きている日本語ではありません。したがって、日本に住んでいる時、もし私が上達した標準語で話すと、日本人は私の日本語はわるくないと思うだけでしょう。私は外国人ですから……。でも、もしかすると、私が流暢な大阪弁が話せれば、私が外国人であることを日本人はまったく気付かないかもしれません。例えば、ある日、私はある日本人に道を聞かれます。その場所への行き方が私もわからないので、私は「すん

まへん、わたしもわからへん。」と返事します。その日本人は私が外国人であることはぜんぜん気付きません。ですから、私が外国人であることに気付いた時の、その驚きはもっと楽しみをくれるはずでしょう。なお、自然に「ちゃう」、「わからへん」、「あかん」などの言葉が使えれば、それも面白いだろうと思っています。

最後に、大阪のお笑い芸人は日本で一番有名だと思います。台湾のテレビ局は日本のテレビ番組やドラマをたくさん放送しています。その中でも、笑いの番組が多いです。例えば、「ロンドンハーツ」や「いきなり！黄金伝説」や「秘密のケンミンshow」などの番組は台湾でも大人気です。笑いの番組にはもちろんお笑い芸人がたくさん出演しています。したがって、大阪で一番有名な「吉本興業」も台湾でも有名になりました。ですから、台湾で大阪弁は笑いの代表になりました。そして、私は吉本興業のお笑いタレントの中でも、「島田紳助」や「ロンドンブーツ1号2号」などの笑いネタが好きです。もちろん、他のお笑いタレントの笑いネタも好きですが、たくさんありすぎて、全部書けません。それで、大阪弁での笑いが聞いてわかれば、それはすごく楽しいことだろうと思っています。

今まで述べてきたとおり、私は大阪

出身ではないけれども、もうここへ来たから、この場所に溶け込みたいです。ここに住んでいる時間の長さはまだわからないけれども、ここで勉強して、国へ帰った後で、私は大阪で生活して勉強したことを、どうしても、他の人に伝えたかったら、大阪弁は一番簡単な証明だと思うからです。

日本の生活を盗み聞き

FROMELL CARL HUGO JONATAN (スウェーデン) フロメル カール フーゴ ヨナタン
優秀賞 (中級)

私は多数の大阪に住んでいる人と同じように電車の中で何時間も過ごします。普通、残っている宿題をやらなければならないのですが、たまにひまな時間もあります。その時に色々な人の話をこっそり聞くのが好きです。

普通の日本人の話は良い聞く練習になるのですが、一番おもしろいことはもちろん話の内容です。留学生にはその話がいい社会勉強になります。日本人の話題は日本の社会を映しているからです。とにかく知らない人の生活はおもしろいです。

平日は電車の中でだれもほとんど喋らないで本を読んだり、ゲームしたりしています。寝ることも多いです。そして、電車はいつも満員電車なので乗客は身体的にも良い会話をしにくいのですが、週末になると話題がもっとおもしろくて多くなります。学校の制服を着ている若者から元気そうなお年寄りまでみんな色々なことについて話しています。若い女性の話は学校の話や好きな男の子の話などたくさんあります。その話を聞くと中学の時を思い出してなつかしくなります。私にとっておもしろい会話になったら、ついてい

くために一生懸命聞きます。日本語があまり上手ではないので100%集中しなければならないために自然にあやしい顔をしていると思います。私が日本人だったら私が盗み聞きしているのがわかってしまうかもしれませんが、私が欧米人の見た目のおかげで会話の内容がわかって相手にはわからないでしょう。それで盗み聞きは私にとっては簡単なことなのです。

欧米人としての恩恵は盗み聞き以外にもたくさんあります。日本人の立ち場からいうと私はなにかゲストみたいな人です。そのため、たいていの人々は私にとっても親切に話したり色々なことについて助けてくれたりします。だからとても感謝しています。

でも、ゲストは家族の人ではなくて、ゲストなのです。招待されたゲストが家へ来る前にいつも部屋を片付けて、汚れたところや見せたくないところをできるだけ隠しておきます。そのため、ゲストは何かを隠されて、不自然な感じがします。

日本は他の国よりこのような印象が強いというのが私が持っている意見です。日本人は本当に優しく丁寧な一

方で、日本人と本当に友達になるのは簡単なことではないと思います。

でも私は日本に在る間にゲストから内の人になりたいと思っています。

100%日本人になるのは無理ですが、日本の社会に参加する人になりたいです。そのためには色々なことが必要です。

まず、きれいな日本語が使えなかったら、コミュニケーションが難しくなるでしょう。私は今、練習中なのです。でも日本語能力だけでなく、日本人の考え方と日本の社会と合っている考え方を理解しなければならないと思います。そんな考え方を持てるようになるのは言語をマスターするより難しいと思います。というのは、言語をマスターするためには教科書や授業がありますが、人の心をわかるには、本を読むだけでなく、現実の経験がなければならぬものだからです。

電車の話に戻りましょう。

簡単に言えば、私が言いたいことはこれからもしっかり日本語を勉強しながら経験に富んだ生活をしていきます。するとある日、電車の中でこっそり盗み聞きしている人から話している方の人になれます。これが私の希望です。

漢字を味わう

方 振文（中国）ホウ シンブン

優秀賞（中級）

今、漢字は世界各国の言葉の中で、一番古い言葉として皆に知られています。漢字はお茶を飲むような、飲めば飲むほどいい味がします。

漢字というのは簡単な筆画で構成されて、豊かな意味を表現することができもののことです。昔のある「文字で詳しく説明」という本には、漢字のなりたちが何種類もあります。主に「象形」、「指事」、「会意」、「形声」、「転注」、「仮借」です。例えば、「象形」という漢字は物の形を表してつくります。「会意」という漢字は二つの字を組み合わせ、新しい意味を生み出します。私はこの漢字の造り方にとっても興味があります。また、漢字は祖先によって発明され、素晴らしいと思っています。

私は小さいころ、他の学生たちと同じように、毎日先生に漢字を覚えさせられていて、翌日書き取りをしなければなりません。漢字の書き方は大変ですから、たまにあきらめることもありました。しかし、私はあることによって変わりました。

新潟のある小学校は私の小学校の姉妹校で、毎年学校の方が私の小学校へ

交流しに来ました。書道とかダンスとかいろいろなおもしろいことをお互い披露し合って、雰囲気がとてもよかったです。日本の小学生はきれいな服を着て、ステージで歌を歌いながら踊りました。その中で、私はダンスが上手な女の子に注意して、踊り終わった後で、私は代表として、花を贈ってあげました。すると、その女の子はきれいな絵はがきをくれました。その絵はがきに「明鏡止水」という四字熟語が書いてありました。しかもその漢字はかなりきれいでした。どうして日本の小学生は漢字が書けるのかと思いました。小学生の私は日本人が漢字を使うことも全然知りませんでした。後で、先生に聞くと、日本も私の国も漢字をメインの言葉として使っています。突然私は嬉しくなってきました、もし日本へ遊びに行けば、日本語を勉強しなくてもいいと思って、それで、一生懸命漢字を覚えるようになりました。「一石二鳥」ではありませんか。

私は大きくなって、日本の漫画やアニメをよく見たり、おじさんが日本から持って来てくれたお菓子を食べた

りする中で、日本語は漢字だけでなく、ひらがなとカタカナもあると気付きました。

たまに中国語と日本語の漢字は同じ形にもかかわらず、意味が全然違うことがあります。例えば、「大丈夫」という漢字、日本語の意味は「心配しないで」です。でも、同じ形の中国語の言葉は「大きな志や理想を持っている人」の意味です。もう一つ例をあげます。「勉強」この漢字は中国語では「どんなに能力不足や自分の意志が違っても、そのことをしないとイケない」ですが、日本語では「学問や技術を学ぶこと」の意味です。実におもしろい思い、もっと日本語に興味が出てきました。それにしても、大部分の漢字の意味はだいたい同じですから、中国人はほかの国の方ほど日本語を勉強するのは難しくありません。今の私は中国の留学生として日本へ勉強に来ました。大学院進学を目指すと同時に、心でゆっくり日本の漢字を味わっています。

ある日、私はお茶を飲みながら、音楽を聞きました。突然に天幕の上で二枚の透明な紙が飛び、そのうち一枚は私が日本語で書いた日記で、もう一枚は中国語でした。二枚は纏わりついて離れずに、でも重なり合いませんでした。日本語は流れている谷川の水で、中国語は立っている山のように

した。一つは柔らかくて、細やかですが、もう一つは立派で、雄大でした。私は瞬きもせずいると、急にその文字が紙から跳ね上がって、空気中で混ざり合いました。そして最後に、同じ形の漢字が空気中で沸騰して、美しいにじになりました……「ピピピピ」目ざまし時計が鳴りました。それは夢でした。

漢字のおかげで、ちっとも日本語を話せない中国人たちは日本の場所を観光することができます。漢字のおかげで、日本語が全然わからなかった私は日本の小学生がくれた絵はがきを理解することができました。漢字のおかげで……

お茶はたくさん種類があります。その中でも私はウーロン茶の味が好きです。ほかのお茶と比べて、ウーロン茶は特別な味がして、飲んでいる時はちょっと苦いですが、しばらくすると甘くなります。そのおいしさは言葉にできません。

同じ漢字を使っている日本と中国はウーロン茶の味のように、未来が甘くなる。私はそう信じています。

夢への道

崔 林日（中国）サイ リンニチ

最優秀賞（上級）

皆、それぞれ夢を持っていると思うが、私の夢は建築デザイナーになることだ。小さい時からサッカーが大好きだった私は、学校ではサッカー選手であり、よく父に連れられて観戦にも行ったりした。当時の私の田舎のサッカーチームには技術の良い選手がたくさんいたが、スポンサーがおらずチームが存続の危機に面していた。お金の心配さえなければ、選手たちが安心していいプレイができるのにと気の毒に思った私は、将来建築家になることを決めた。幼い心で建築家は大きいビルを建てる仕事だからお金持ちになれる。お金持ちになったら必ず田舎のサッカーチームをサポートしようと思ったからだ。これが当時小学校3年生だった私の天真爛漫な夢であった。ずっとその夢を胸に抱いた私は、その後の高校、大学、また日本への留学、すべてがその夢に向かって一步一步進んでいるところであるが、その道は決して順風満帆なわけではなかった。

大学を選ぶ時のことである。私は実家から遠く離れた大学を希望した。その大学には私の学びたい建築専攻があった。ところが、両親は反対だった。長男である私は大事に育てられ、親は今まで家事

をしたことのない私が親元を離れて寮の生活をするのが心配だったらしく地元の大学への進学を勧めた。正直私も勉強と生活が両立できるのか不安はあったが、どうしても夢を諦められず親を説得して希望した大学に入った。今になって大学四年の生活を振り返ってみると、その大学を選択して本当に良かったと思う。まずは、建築を専攻したことで建築家の夢をだんだん現実的に強く感じるようになった。また、大学で育てられた自立性、生活能力が今の留学生活にとっても役に立っている。

去年、大学を卒業する時、私はもう一度就職か留学かを選択する十字路に立った。両親は、最初私が就職することを望んでいた。ちょうどその時、学校から給料の高いいい会社への推薦もあった。就職難と言われる中国の現状から見ると、こんなチャンスもめったに訪れて来ない。また、親孝行をするなら早く就職した方がよいが、私は大学で学んだ知識だけでは夢を実現するのに足りないと思い、留学への道を選択した。このように、人生に関わる選択を迫られた時は誰でも躊躇したり悩んだりする。だが、夢さえあれば不安と心配があっても後悔の

ない選択はできると思う。もし、夢がなかったら、私も今と違う人生を歩んでいるだろう。でも、夢があったからこそ日本への留学もできたし、異文化を通じて世界観も価値観も変わり、今の自分に満足している。

私は、夢に向かう道は、孤独な道だと思う。誰も同行することのできない、独りで凛々と歩いて行く孤独な道だと思う。もし、家族、あるいは周りの人々の理解を得られない場合はその孤独と寂しさは倍に感じられるものだろう。私も孤独と寂しさを感じる時がある。時々孤独と寂しさ、または勉強に疲れた時、私はなぜこの難しい道を選んだのだろう。大学を卒業して就職したら安易な生活ができるはずなのに、なぜこのように苦しみながら勉強しなければならないのかと空しく感じる時もある。こんな弱い自分が現われ、心が乱れる時、私はいつも夢を思い出しながら自分を慰める。私には夢があるんだぞ。建築デザイナーになって田舎のサッカーチームをサポートし、選手たちが思い切り自分のプレイができるようにしたい。また、自分が建てた家で暮らす人々の幸せな笑顔もみたい…。だから頑張らなければならないと自分に言い聞かせる。そう呟くうちに、いつの間にか元の自分に戻ってくる。確かに、夢への道は距離を知ることができない道でもあり、実現するまで何年かかるか測ることもできない。この道は遠くて長い

が、その過程も人生の一部であり、もしかして一番頑張った自分だったかもしれないし、どんな時より充実した自分だったかもしれない。だから焦らずにむしろ楽しみながら歩いていくのだと思う。

私は夢への道で躓いたり転んだりしても常に根気のある姿勢で諦めず行こうと思っている。そして、私と同じような思いをしている夢の追求者に言いたい。孤独でも寂しくても、また遠く感じられても頑張ろう。私たちには夢があるから。夢が私たちを待っているから。

日本のバリアフリー

張 雁婷（中国）チョウ ガンテイ

優秀賞（上級）

日本へ来て半年になりました。いろいろなところへ行ったこともあります。自然の景色もきれいだし、都市もにぎやかです。その雰囲気は中国と比べて全然違います。

しかし、私が特に注目しているのは日本のバリアフリー設計です。

私達は障害者や体が不自由な人を見ると、「大変ですね」とよ思います。しかし、私はこれより、更に敬服することがあります。その人達は強い自立意欲を持っています。とても強靱で、勇気があります。「私だったら、これほどできるかなあ。」と私はよく考えます。たぶんできないでしょう。ですから、私達はもっと多くの愛を与えます。障害者に「特別」や「かわいそう」と思うかわりに、よく理解する方がいいです。

バリアフリーの施設があれば、障害者はどこへでも行けます。地下鉄にも乗れるし、交差点も渡れます。一人でも大丈夫です。障害者や高齢者だけではなくて、普通の人も利用できます。私達の生活も便利になります。皆で構成された社会にとって、バリアフリーは必要です。

日本はどんどん高齢化の社会へ進んでいきます。お年寄りも多くなります。年をとると体は悪くなります。いろいろな健康の問題が出てきます。体はだんだん不自由になります。ある人達は車椅子の助けを借ります。この人達の生活ができるように、バリアフリーの施設を造る必要もあります。近年、交通事故が増えるとともに障害者も増えています。バリアフリーを造るのは障害者を便利な暮らしの条件です。障害者ではなくて、私達の生活も便利になります。障害は消失しました。大きな国際的な場面でも、バリアフリーは設置しなければならないものです。

私達の生活ではいろいろなバリアフリーの施設が見つかります。例えば、地下鉄の駅に入る時はいつもアナウンスの音が聞こえます。この駅を通る地下鉄は何線か、どこ行きか、聞いていると、すぐわかります。もし、足が不自由な人だったら、一つ一つの地下鉄の駅にはエレベーターがついているので、エレベーターを利用して、乗り場へ行けます。なにか困ることがあれば、駅員も手伝ってくれます。地

下鉄とホームの間に狭い隙間があります。この小さいところは車椅子に乗る障害者の行動を邪魔しています。しかし、私はいつも見ていると、この問題もなくなりました。足が不自由な人は何番列車に乗るのか、駅員はよくわかっています。降りる駅の駅員にも伝わっています。駅員は板を持って地面におきます。足が不自由な人も列車に乗れます。目的地につくと降りられます。私はこの状況を見て、とても感動しました。ほんとうに障害者の立場から考えています。私達目のいい人は交通信号を見て、赤か緑かすぐわかります。しかし、目の弱い人にとってこれは大変なことです。色はよく見分けられませんから、とても困ります。日本ではこの問題もほとんど解決されています。交差点の側にあるボタンを押すと、交通信号はすぐ緑になって音楽が流れ、車が止まって、待っています。公共の場所で、障害者向きに作られた施設はたくさんあります。例えば、エスカレーターを造る一方で、エレベーターも造ってあります。情報を伝えたいところは点字もつけてあります。階段があるところは障害者用のゆるやかな坂もあります。インターネットでもたくさんのウェブページはアナウンスで伝えられます。目の不自由な人もインターネットでニュースが聞こえます。高齢者や身体に障害のある人に限

らず、病気やけがをしている人、妊産婦や幼児をつれていたり、重い荷物を運んでいる人達も利用できます。

今、中国も高齢化問題は深刻です。中国で60歳以上のお年寄りはまだ1.4億人に達し、総人口の10%以上を占めています。今、中国はこの方面でもとても努力していますが、まだ足りないと思います。ときどき私は町で歩いて見ながら「ここは障害者ならたぶんどけないでしょう」とよく思います。中国の町で障害者はなかなかいません。というのはバリアフリーの施設はまだ整っていません、体が不自由な人は町で歩くのはとても難しいです。中国より日本はこの方面が進んでいると思います。何年も前からバリアフリーの施設を建設することを始めました。中国と比べて、もっと先進的です。中国はこれからも皆のためにバリアフリーの施設を造っていくでしょう。

身体障害者について、物質の支持だけではなくて、私達は心から障害者達を支持して、心のバリアフリーをやり遂げていかなければならないと思います。

私が体験した日本文化

梁 霄（中国）リョウ ショウ

優秀賞（上級）

高校二年生の時に、日本語の先生から「菊と刀」という本をすすめられました。私はその時から日本への留学を希望していましたので、日本の文化について知るためにその本を図書館から借りて読みました。しかし、本の内容は文化の奥深い所まで分析しており、著者が何を読者に伝えたいのかをその時はよく理解できませんでした。そして、それから二年後の現在、三ヶ月の留学生活を通して、日本でさまざまなことを経験して、私はその本の内容をいくらか理解したような気がします。本の内容と関係深いおもしろい日本文化の体験談を話したいと思います。

まず、本の中に何度も「恥の文化」という言葉が出てきました。日本人はかなり人目を気にすると本の中で解釈されていましたが、この言葉について理解を深めたのは来日して三日目ほどのことでした。夕方ごろ、駅の交差点で二十人ほどが信号を待っていました。道は狭く、車も全く通っていません。それでも信号無視する人はおらず、私は日本人のマナーのよさに感心していました。しかし、次の瞬間、二人の若者が渡り始めました。すると後

ろにいた二十人ほどの人が突然前の二人について渡りはじめました。これには私はとても驚きました。国では信号を守る人と守らない人がいます。信号を守る人はいつも信号を守り、守らない人は絶対守りません。どちらか一方が他方につられて行動することは絶対に考えられません。このことから、日本人は人目を気にして、個人の行動は他者により左右されやすいことに気づきました。

また、電車の中でもおもしろい体験をしました。ある日のラッシュアワーの時間に私は電車に乗りました。もうすぐ目的地に到着するという時に、私はドアに近づこうとして、体を動かしました。すると、まわりの人はすぐにそれに気づき、私に道をゆずってくれ、私の前に一本の道ができました。これにも私は驚かされました。私の国では電車から降りるには「すみません」を十回以上言わないと降りられません。この事からも日本人は常にまわりの目を気にして、決して他人に迷惑をかけないようにしていると気づきました。

日常生活の中で、日本人は常に人目

を気にして、他人に迷惑をかけることや他人と違った行動をとることを恥だと思っている文化から「恥の文化」という名前がつけられたのではないかと思います。そして、このような文化の中で人々は人間関係に過度に敏感になりやすく、それがストレスや高自殺率につながっているのではないかと思います。

次に、「菊と刀」の中には「おのずから」という言葉も出てきています。物事を自然に任せるという日本人の考え方を表していますが、最初に本を読んだ時はこの言葉を全く理解できませんでした。しかし、私は京都への旅行を通して、この言葉についてもいくらか理解したような気がします。

おのずからという言葉は、日本庭園でよく表されていると思います。私が最初に京都の日本庭園を見た時にはその美しさに感動させられました。日本庭園は人間の傑作というよりもありのままの自然を再現しています。人間を表現しようとする欧米芸術と比べ、自然の美しさを表現しようとする日本の芸術が私に伝わりました。自然と対立せずに、仲良くして、物事を自然に任せる日本文化を私は体感しました。

また、京都で日本の伝統音楽を聞いた時も同じような体験をしました。国の伝統音楽はとてにぎやかな感じで、長時間聞くとうるさくて、いらい

らします。しかし、日本の伝統音楽には悲しい感じがあります。人間は自分の生死をはじめとする多くの事を自分で決められず、自然に任せるしかないという哀れな気持ちが伝統音楽から伝わってきます。

そして、日本語の教科書では、自分と直接関係のあることも語尾には「なりました」を使います。例えば「引越すことになりました」という文です。国の言葉にも「なりました」という言葉はありますが、上のように自分の決められる事に使うと文法的な間違いとなります。最初は日本語でどうしてこのような使い方をするのだろうと不思議に思いました。日本語の使い方からも、おのずからの文化がはっきりと表されていると思います。

このように、私は三ヶ月の留学生活を通して、いろいろなおもしろい体験をして、日本文化についての理解を深めてきました。夏休みを利用して、再度この「菊と刀」を読み直したいと思います。日本文化には私達外国人が見習うべきものはたくさんあると思います。これからの留学生活で日本文化についてさらに理解を深め、日本のよい所を学び、将来は私の国と日本の交流のかけ橋になることを私は心から望んでおります。

売り物上手

林 宜臻（台湾）リン イーシン

審査員特別賞（上級）

留学生として日本へ来て、改めて日本のことを知った。日本へ来る前日本のドラマや漫画を通じて日本のことを知り、日本にあこがれていた。日本へ来た後、メディアではなく、ちゃんと自分の目で日本を見た。日本人と一緒に生活し、「文化差異」という言葉がわかった。台湾の文化は日本に影響され、似ている言われていたが、実際に日本で生活し、似ていないと思うようになった。町のきれいさにしても人々の考えにしても全然違うと思う。中でも日本人がすごいと思うことは商品の売り方だ。

日本の主婦は買い物上手だということとは世界で有名だが、日本は買い物だけでなく、「売り物」も上手だと思う。日本へ来て日本ならではの「売り物」の方法を見い出した。食品から本にいたるまでどんな物でも特別な売り方がある。様々な売り方の中で一番印象に残ったのは「限定」という方法だ。なぜなら、私はこの方法に食い付いた人の中の一人だからだ。スーパーに行く度にお菓子のコーナーで必ず新しい商品が発見できる。しかし、単なる新商品だけではない、「季節限定」

商品だ。二月に梅の味のエビせんがあった。春になると桜味が出た。夏にぴったりのわさび塩味のポテトチップスがあり、秋になるとゆず塩に変わる。日本にいるかぎり、一年中食べきれないほど新しいお菓子が食べられる。季節だけでなくお菓子メーカーは世界のイベントに応じて、「オリンピック限定版」や「サッカーワールドカップ限定」などを出して、消費者の目を引かせる。

私も元々日本のお菓子の大ファンで、おまけに「限定」という言葉に弱いから、もし限定版のお菓子を見つけたら、つい買ってしまおう。お菓子が食べたいわけではない。遅くなったら買えなくなっているまでのことだ。

限定版はお菓子のジャンルだけでなく、漫画から音楽に至るまでどのジャンルでも見られる。よく見たのは音楽の通常版と初回限定版だ。初回限定版と通常版の違うところはジャケットの様式と収録された曲目が少々違うところだ。特典DVDや期間限定のイベントの抽選券がついていることもある。ファンなら両方とも買わずにはすまな

いだろう。偶然にテレビで見たことだが、ある男の人は人気アイドルAKB 48のファンだ。熱狂的なファンだけあって、イベントの抽選券がついているシングルを、なんと同じシングルを七百枚も買った。彼の部屋はまるでCDショップの倉庫のようだ。特別な例はともかく普通のファンでも2枚は買うだろう。私も同じシングルの通常版と限定版を全て買って、母に叱られたこともある。このような方法によって、売り上げもランキングもいい成績が出るだろう。業者は消費者がどんな物が好きか、どんな方法が消費者の心をつかめるかという理念を基にいろんな売り方を出しているのだ。

私は限定版の外に百円均一という方法も好きだ。全部の商品は百円だから、店に行く客はつい無駄な物を買ってしまう。百円は安いといっても、たくさん買うとかかるお金もばかにならない。

日本は広告やメディアの力はすごいと思う。例えばバレンタインデーにはチョコレートが好きの人にあげ、ホワイトデーにはチョコレートをもらった人にお菓子を返すことになっている。台湾はこのような習慣がないが、日本のドラマや漫画を見て、バレンタインデーにチョコを友達や好きな人にあげるようになった人もいた。テレビのコマーシャルやテレビ番組によって人々

の考えも変わるのだ。普段チョコを買わない人も買うようになって、チョコレートの売り上げは普段の何倍も伸びただろう。クリスマスもバレンタインデーと同じように業者が狙っている日だ。こんなことも聞いたことがある。もしアメリカ人やヨーロッパ人に「クリスマスはどう過ごす？」と聞いたら、「家族と一緒に静かで温かいクリスマスを過ごすつもりだ。」と返ってくる。日本人に聞いたら、「今年こそ、クリスマス商戦に勝つぞ！」と返すのだ。この話は冗談だが、クリスマスは日本人にとって物を売るチャンスだと考えられる。

不景気な今では各メーカーや会社、店はこの社会で生き残るため、新しい方法をまた考え出すだろう。この影響は日本のみならず、世界にも影響を与えている。日本の売り方を学び、売り上げを伸ばす。今台湾でもダイソーができ、限定版が続々と出されているらしい。